

上海経済の現状と今後の展望

—上海対外経済貿易大学の陳子雷教授とのオンライン講演会を開催—

2021年9月10日

講師：陳子雷 上海対外経済貿易大学教授

経済広報センターは9月10日、「上海経済の現状と今後の展望について」と題するオンライン講演会を開催し、上海対外経済貿易大学の陳子雷教授から、2021年から始まった中国の第14次5カ年計画と、その長期目標について解説を聴いた。会員企業の海外事業担当者など約70名が参加した。

陳氏はまず、中国は2020年までに小康社会（ゆとりのとれた社会）の構築を実現したと説明。そのうえで、2021年からの長期目標は、2035年までに社会主義現代化国家を実現することであると述べた。その達成に向けた第14次5カ年計画では、経済成長率の追求以上に、持続的かつ健全な経済成長が目指されていると説明した。具体的には、開放的な経済新体制を構築すること、質の高い雇用を実現して国民の収入水準と経済成長率を一致させていくこと、さらに国内市場を主軸として内需を拡大させ、外需とのバランスを取りながら貿易強国を築いていくことなどを挙げた。

中国経済の動向について、2020年は新型コロナウイルスの影響を受けたが、2021年は順調に回復しGDPも上昇しており、特に上海では第二セクター、第三セクターが伸びていると述べた。一方で、依然として外需依存傾向が強いことや、エネルギー政策等により経済の構造転換が遅れる可能性があること、大口商品の国際価格が上昇していることなどが課題であると指摘した。

さらに陳氏は中国経済の今後の展望について、上海の浦東エリアを社会主義現代化のリーディングエリアと位置付けて開放を促進していくことや、浦西エリアの虹橋を交通や物流のハブとして経済統合を推進していくことなどを指摘。上海における日系企業のさらなる活躍に期待を寄せた。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。